

大学生に寄り添った新たなもっけへ

C1240842 佐藤綾美

テーマ:利用者のニーズに応える新しいコンビニ(もっけ)の提案

①私は実際にもっけに行って観察を行った。その時に感じた事として、置いてある商品が少なく、利用している人もあまり見られないという事が挙げられる。その事についてもっけの店員さんにインタビューしたところ、買う人が少ないため商品もあまり置かないようにしているとの事だった。また、教科書販売で使われていたスペースはフリースペースであるため、食事などで利用して良いと教えていただいたが、誰も使用している人はおらず、音楽などもなく無音であるため、もっけ全体的に寂しい印象を持った。

②この体験から顕在的ニーズとして、商品の取り扱いを増やしてほしい、またはもっけともっけに行きやすい雰囲気を作してほしいという事が考えられる。買いたいものが無ければ行こうと思う事がなく、人が少ないと何か買わなければならないというプレッシャーを感じる事もあるため行く事に勇気がいると思う。この事から潜在的ニーズはできるだけ安く買いたい、欲しい物がリクエストできるようにしてほしいだと思える。文房具をリクエストする事ができるのはもっけに実際に行けばわかる事であるが、それさえも知らない人が多いと思い、潜在的ニーズを考えた。それにより課題は「今より販売したもっけにするには」と設定した。

③コンセプトは東北公益分科大学の学生向けに、お金を可能な限り節約しつつ普段の生活を楽しませてくれるようなサービスを提供するもっけという空間である。プロダクトは三つ設定した。一つ目は、もっけのインスタグラムを作ることである。現在の大学生はほぼ全ての人が使用している SNS であるため、どんな商品を取り扱っているかや新商品、セール品、割引日などを投稿する事で、少しでも節約したい人や欲しい

ものがある時だけ買いに行くことができ、最小限のお金で済ませることができる。また、DM というメッセージを送り合える機能があるので、そこでの文房具のリクエストが可能になればもっけが閉まっている時間でもリクエストする事ができ、時間の節約にも繋がると思う。二つ目は、イートインスペースを使って文房具のお試しスペースを作ることである。大学の中にあるコンビニは絶対に大学生は使うと思うので、コクヨやゼブラなどの文房具の開発や販売を行っている会社に協力していただいて、開発段階の物や新商品の体験を行うことができるようにすれば、あまりできない体験であるため、体験してみたい人は多いと思う。勉強においてデジタル化は進んでいるが、少なくともテストで使う事やパソコンの作業中などに並行して使う機会があると考えられるため、自分に合った文房具を無料で探す事ができる良い機会になるのではないかなと思う。三つ目は、大学生のボランティアがもっけの運営に協力することである。プロダクトの一つ目でも出したインスタグラムは、若い人が一番使いこなしており、もっけの店員さんが一から頑張るよりも大学生の力を借りるほうが色の使い方がわかりやすく、大学生が知りたい事を知ることができるのではないかなと思う。店頭には出ずに、メッセージで投稿を作ってほしいと依頼されたら、作成してインスタグラムに投稿するだけであるため、いつでもどこでも協力でき、ボランティアの大学生の負担も少なくする事が可能である。また、もっけには音があまりなく寂しい印象を受けているため、大学生が選んだ最近流行っている曲や人気アイドルの曲などを流せるようにしたら、曲を聴きたい大学生が訪れるようになり、その時に文房具をお試ししたり、お菓子買ったりして、もっけが賑わった楽しい空間になると思う。

④期待される効果としては、SNS によりもっけを宣伝する事でもっけでの経済活動を活発にする事ができる事である。それにより、今とは違う新しいもっけのある空間を作る事ができ、もっけが賑わっていて楽しい場所になると考えられる。